

初心にかえる

新年度が始まりました。学校や職場が変わったりするなど、新たな環境での生活をスタートする方もおられるでしょう。この年度始めに売上を増やすと言われている書籍があります。それは語学のテキストです。「新年度になったのだから、外国語の習得に挑戦しよう」という初心を心に抱く方が多いためでしょう。しかし、月が進むにつれて、少しずつその売上が落ちていきます。当初の初心が揺らぎ、脱落していく人が増えるからです。

かく言う私も、大本山永平寺で修行させていだいていた時、そんな苦い経験をした者の一人です。入門当初は、「あきらめず修行を全うしよう」という初心を保ちながら修行できていましたが、入門から二か月が経った四月くらいになると、修行生活にも慣れ、次第に「この程度でいいか」と手を抜いたり、「どうせ」などとあきらめるようになりました。そんな私のような修行僧への戒めなのかもしれません。永平寺には、一定期間が経つと配属先が変わる仕組みがあり、公務といわれる新たな役割を覚えなくてはならないのです。その度に、当初の初心を思い出す機会となり、謙虚に修行に向き合うことができるようになります。先人たちによって培われてきたその仕組みに生かされて、修行僧は充実した修行生活を営むことができます。また、異動してきた後輩の修行僧に指導する立場の先輩僧侶もまた、初心にかえる機会が与えられるのです。

道元禅師のお示しに「初心の弁道はすなわち本証の全体なり」という言葉があります。初心を保つての修行こそが、お悟りそのものであるという意味です。皆さんには、この年度始めに抱いた初心を忘れず、ぜひ初心を貫き通していただきたいと願います。

行事アルバム

「キャンドルライト寺ヨーガ2023夏」



びんずるさん

「お寺の本堂の中におられる仏さまの中で最も身近な仏さまは誰でしょうか？」この質問を受けた場合、私はびんずるさんと即答します。びんずるさんはその多くが本堂内の廊下などの身近な場所にまつられており、お参りにいらした方々がしきりにそのお体をなで、病気が治るよう手を合わせていることの多い仏さまです。びんずるさんは通称であり、正式なお名前は賓頭盧尊者びんずるさんといいますが、賓頭盧尊者は、なでた場所の病気が良くなる不思議な徳として信仰を集めてきました。ではなぜそのような性格を持つ仏さまになったのでしょうか？

賓頭盧尊者は、お釈迦さまの弟子たちの中で、お悟りを開き、人々に尊敬される資格を持った存在である十六羅漢の第一番目にあげられる方で、その説法は獅子のように力強かったため、獅子吼第一とも呼ばれました。また、賓頭盧尊者は、神通力、いわゆる超能力の持ち主でもあり、姿かたちを自在に消したり、空を飛んだりすることができたといわれています。しかし、賓頭盧尊者は、その優れた神通力をみだりに世間の人に見せてしまったためにお釈迦さまのお叱りを受け、他の弟子のようにお悟りの世界に入ることを許されず、お釈迦さまが亡くなった後も、生きとし生けるものを救い続けることを命じられました。そのため、多くの仏さまが本堂の奥にまつられることが多い中、お参りの方に最も近い場所にまつられ、またその力で病気を治してくれる仏さまとされました。

五月は、不眠などの五月病の症状を訴える方の多い時期です。皆さんの身の回りにもしそのような方がいた際は、賓頭盧尊者のように近くに寄り添い、その悩みに耳を傾けてあげる。そんな生き方を目指しては如何でしょうか？

お知らせ

曹洞宗公式ホームページ「曹洞禅ネット」



当寺が所属している宗派である曹洞宗の公式ホームページです。「曹洞宗の教えや修行について」「日常に禅の教えを取り入れる方法」「一仏両祖(道元禅師・瑩山禅師)について」「両大本山(永平寺・總持寺)について」「坐禅の作法や参禅会情報」「人権・平和・環境への取り組み」などを紹介しています。とりわけ「供養・法要について」内の「お仏壇のまつり方」「法事の営み方」は大変参考になります。スマートフォンやタブレット端末での閲覧も可能であり、また、各種SNSへのリンクも貼ってあるため大変便利です。どうぞアクセスの上ブックマークなどに保存して活用ください。



スマートフォン・タブレット端末のカメラ機能で読み取ってください。